

頑張らぬ事を頑張る猛暑の日

上山美穂

「頑張らぬ事を頑張る」とするなら分かりやすいが、「頑張らぬ事」として、おやと思わせる。つまり、この句は「頑張りません」の句なのである。



詐欺電話受話器置く手が西瓜切る

臙潤

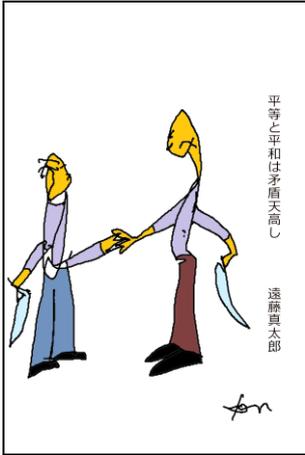
詐欺の電話は巧妙で、脅迫、脅しを使って恐怖心を煽ってくる。しかし、作者は全く動揺することもなく、応答した直後に平常心で西瓜を切る。



夏蝶の木蔭より出て消えしまま

柄川武子

蝶が一匹、木の蔭から出て戻って来なかった。ただそれだけの事だが、不思議な余韻がある。小さな命の生から死へのゆるやかな軌跡が見える。



平等と平和は矛盾天高し

遠藤真太郎

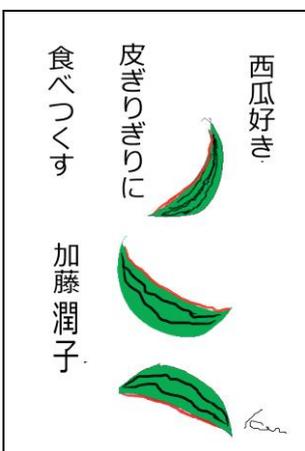
世界は平等を建前としているが、現実決してそうではない。いつの時代にも争いが絶えない。宇宙や自然界には矛盾がなく調和しかないのである。



残暑見舞い入道雲にも出そうかな

鈴木和枝

「入道雲」のもくもくがお好きなのですね。入道雲に手紙を書きたいと言った人は、これまで誰もいない。鰯雲だと何十枚も書かないといけなぬ。



西瓜好き皮ぎりぎりに食べつくす

加藤潤子

分かるなあ。「赤いところだけにしなさい」と言われても、「まだまだいける」と頑張る気持ち。メロンもしかり、アイスクリームのふたもしかり。